

第 16 回群馬県支部総会・講演会報告

群馬県支部長 深澤 恵子 (昭 56・化学)

令和 4 年 10 月 30 日 (日) 高崎アーバンホテルにて第 16 回群馬県支部総会・講演会を開催しました。当日は鶴風会より伊藤理事・深井理事、神奈川県副支部長の高柳様、評議員の名和様にご出席いただきました。また今回初めての試みとして Zoom を使ってハイブリッド方式を採用し、進藤理事、北陸支部・東海支部・鹿児島県支部の各支部長、新潟県支部・東海支部より 4 名の役員の方がリモート参加してくださいました。会場では群馬県支部会員 2 番目の長老石田様をはじめ 7 人の正会員でしたが、各地の方と一緒に和やかな会になりました。

総会に先立ちまして支部長挨拶の後、群馬県支部顧問である前支部長の原秀介氏から、3 年ぶりに支部総会を開催できたことと、今までの支部の歩みを交えてご挨拶いたしました。そして来賓を代表して、いつも群馬県支部を応援してくださっている深井様よりご祝辞をいただきました。

総会では初めに会の成立を報告し、昨年代わりました役員を紹介し承認していただきました。当日の議案は 2019 年度からの活動報告、決算報告、監査報告、2022 年度予算及び活動計画について、これらは承認されました。



原顧問挨拶

講演会の前に出席者の紹介を行い、会場とリモートの方ひとりひとりに声を発していただき、高崎が各地と繋がりました。

伊藤理事からは、習志野キャンパスの理学部 I 号館から V 号館・メディアセンター・スポーツアリーナなどの新しい建物に加え、100 周年で新しくなった正門などの画像を見せていただきました。そして球体モニュメントの映像とそれを囲む噴水の音に私たちは習志野に引き寄せられました。

飯野副支部長は、夏から講演準備のために「高崎だるまの日記念イベント」の写真を撮って用意してくれました。昔ながらの伝統的な製法の紹介や、最初に作り始めたとされる山縣友五郎氏からの歴史などを話してくださいました。全国一の生産量を誇る高崎だるま、私たちはその技術者のひとりである飯野さんから、縁起達磨の顔の描き方を教えていただいたこともあります。この日はそんな高崎だるまが会場の出席者へのお土産になりました。



3年ぶりの支部総会で、皆さんのお話を伺いたかったし講演も盛りだくさん、更に進行や機械操作の不手際もあり、初の時間延長になってしまいました、次の予定があった方、申し訳ありませんでした。

最後に出席者全員を画面上で写真撮影しました。高崎ではお正月にだるま市が開かれます。そこでだるまを購入すると、だるまやさん・周りにいる人みんなだ福を呼ぶ手締めを行います。この日は会場にいる人とリモート参加の人で、一緒に手締めをして今回の締めといたしました。



会場の様子



会場スクリーンの映像



出席者全員の集合写真

今回ハイブリッド方式で開催するにあたり、全くの手探り状態でした。まず、本部で用意してくださったオウルという 360° web カメラの使い方を調べるところから始まりました。役員は皆 Zoom 経験も少なく、更にカメラを使いながら会場とリモートの方を、常に互いを意識しながら繋げたいという思いを操作するには経験不足でしたので、事務局を作りお手伝いを頼みました。予め練習できたこと、当日会場で初めて気づいたこと、カメラの限界についてなど、いろいろな経験ができました。これらを次回に繋げていけたらと思います。